

Q17 こだわりが強く、次の活動に取り組むことがなかなかできません

【考えられる背景】

- 興味の対象が限られているため、自分の好きなことだけに組み、切り替えが難しい
- 同じ順序や状態でないと不安になり、予測できないことや変化に対しては苦痛を感じる
- こだわらざるを得ない心理的特性（同一性保持行動）から、特定の物や色、テレビ番組や話題についてこだわる
- 新しいことや経験したことのないことに不安を感じるため、変化をいやがる

【支援への手がかり】

環境が変わるとなかなかなじみにくかったり、予定の変更を極端にいやがったりする子どもたちがいます。また、生活の流れや、道順、物の位置が変わることに苦痛を感じます。自分がこだわっていることについて思い通りにならないと、泣いたり、物を投げたりする場合もあります。その考えられる背景はいろいろですが、こだわりを単なるわがままととらえるのではなく、特性を理解し、よりよい対応の仕方を考えていきましょう。

☆ こだわりも許容する

周囲の迷惑にならないこだわりは、ある程度認めますが、場所や時間を区切る等して、してはいけないときと良いときの区別をつけるようにします。また、こだわりが良い面に表われることもあるので（几帳面にしないと気がすまない子を係り活動やあいさつの手本にする）、指導に活用したり、長所に変えていくようにしましょう。また、こだわりを一度になくすことは難しいので、特定のものにこだわるときは、その対象物を小さくしたり、少しずつ変化させたりすることが大切です。

☆ 視覚教材の活用

予定の変更をいやがる場合は、事前に絵カードや写真カード等視覚教材を使って予定をはっきりと知らせておくことが大切です。また、見通しが持てるように終了をはっきりさせる、変更は早めに知らせる等配慮が必要です。

☆ こだわりの活用

興味のあることは集中して行うが、そのことにこだわり、なかなか切り替えが難しい場合は、「〇〇が終わったら〇〇」というふうに課題の後に、こだわっていることや好きなことができるように設定をし、興味の対象の拡大を図るようにしましょう。

☆ やわらげる言葉

勝つことにこだわり、ゲームに負けると泣いてしまったり、みんなで楽しんでいるゲームを壊そうとする場合があります。ゲームの楽しさを感じさせるとともに、勝ちにこだわる子どもに対して、「だいじょうぶ」「次がんばろうよ」「負けても泣かない」等事前にこだわりをやわらげる言葉をかけることも大切です。